

令和6年度
教育委員会活動の点検・評価報告書

与論町教育委員会

令和7年3月

I 点検・評価の概要

1. はじめに

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、すべての教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに、住民に対して公表するよう義務づけられた。また、その実施にあたっては、学識経験者の知見を活用するよう義務づけられた。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による調査活動と、教育委員会の事務事業の執行状況について、実績や成果と課題を記述し、次に示す4区分により達成度の評価を行った。

点 数	内 容
4	順調に達成しているもの
3	おおむね順調に達成しているもの
2	達成見込みがあるが課題があるもの
1	順調でないもの

(複数評価の場合、評価の欄は小数点以下第2位を四捨五入した数値で記載。)

3. 与論町教育委員会の取り組み方針

これまでは、教育委員会関係者とこども園や各学校管理職の自己評価・意見を集約したものであったが、平成28年度より教育委員会の活性化を項目に入れ、また、教育委員による自己点検、自己評価を加え評価項目は4段階での数値評価とし実施した。

その結果を、教育行政評価委員の意見を集約したものを添えて与論町議会に報告するものです。

(1) 教育委員会の活性化の推進では、評価の観点を「(1)教育委員会の会議の運営」「(2)委員の研修等」「(3)委員の活動等」「(4)その他」の4項目について点検評価を行った。

点検評価は、教育長と委員3名の自己評価を基に行った。

(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進では、評価の観点を「(1)道徳教育の充実」「(2)生徒指導の充実」「(3)人権同和教育の充実」「(4)体験活動の充実」「(5)子ども読書活動の推進」「(6)文化活動の推進」「(7)食育の推進」「(8)体力・運動能力の向上」「(9)健康・安全教育の充実」の9項目について、点検評価を行った。

(3) 社会の変化に対応し、自立する力を育む教育の推進では、評価の観点を「(1)確かな学力の定着(学力向上)」「(2)特別支援教育の推進」「(3)キャリア教育の推進」「(4)郷土・伝統文化教育の推進」「(5)海洋教育の推進」「(6)幼児教育の充実」「(7)社会の変化に対応した教育の推進」の7項目について点検評価を行った。

(4) 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進では、評価の観点を「(1)開かれた学校づくりの推進」「(2)学校運営の充実」「(3)教職員の資質向上」「(4)安全・安心な学校づくり」「(5)教育環境の整備・充実」「(6)特色ある学校づくりの推進」「(7)与論高等学校との連携の充実」の7項目について点検評価をおこなった。

(5) 地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進では、評価の観点を「(1)地域ぐるみでの子どもの育成」「(2)家庭及び地域の教育力の向上」「(3)家庭教育支援の充実」「(4)特色ある教育」の推進(5)「土・日の有効活用」の基本方針の5項目について点検評価を行った。

(6) 生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興では、評価の観点を「(1)生涯学習の推進」「(2)生涯スポーツの推進」「(3)スポーツアイランド構想の推進」「(4)文化芸術活動の推進」「(5)文化財の調査・保存・活用」の5項目について年間行事、各種協

議会開催内容、文化活動、スポーツ大会開催状況やそれらの資料等をもとに評価と意見をまとめた。

教育行政評価会議委員

役 職 等	氏 名
与論小学校PTA会長	麓 誘 市 郎
茶花小学校PTA会長	裾 分 功
那間小学校PTA会長	竹 下 徳 正
与論中学校PTA会長	大 馬 福 徳

II 点検・評価結果

(4段階評価)

重点施策	評価の観点	成果・課題等	評価
1 教育委員会の 活性化の 推進	(1) 教育委員会の 会議の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第一水曜日を定例会実施日とすることで、スケジュール調整が容易になり、委員の出席率も良かった。 ・資料が事前に配布され、予め内容を把握できたので、質問が的確にできた。 ・説明資料が要点を簡潔にまとめられており、効率の良い会議運営となった。 ・発言しやすい雰囲気なので、活発に意見が交わされた。 ・行事予定がまとめられ、委員として出席すべき行事や興味のある活動を把握することができた。 ・各委員の活動報告や行事の感想を聞くことで、良い点や課題を共有することができた。 ・議題もこれまでより、多方面からの議題が網羅され、委員会への説明や提案が適切になされた。 ・委員会への説明者をそれぞれの担当者が行うことにより、より専門的な視点からの説明と職員の自覚が図られた。 ・必要な協議事項には、じっくりと時間をかけられるようになった。 	3.9
	(2) 委員の研修等	<ul style="list-style-type: none"> ・県教育行政連絡会では、県の方針や事業内容を聞くことができ大変勉強になった。 ・郡内の教育委員研修会・情報交換会では、他地区の活動や講演を聞くことができ、委員とも意見交換することができ大変参考になった。 次回は全員で出席できれば良いと感じた。 ・町内の講演会や研修会に参加することで、教育に関する知識を深める良い機会となっている。 ・障害・発達に関する研修会や講演会を企画しているが、発信・共有できる場ができてよかった。 ・委員としての役割や資質の向上に向けた研修会等に積極的に参加していきたい。 ・島内で委員同士の勉強会や外部講師による研修会等はなかった。 	2.8
	(3) 委員の活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に参加でき子どもたちや先生方の頑張りを感ずることができた。 ・普段から子どもたちや学校行事を応援している地域の意見を聞く機会が必要であると感じた。 ・学校訪問を通して各学校の教育の特徴や苦勞されていることを理解できた。また、指導方法など工夫や熱意を感じることもできた。 ・学校と保護者との関係の良さを感じることもできた。 ・少人数学級ならではの良さを聞くことができた。 ・学校と教育委員会が話しやすい雰囲気だと感じた。 ・教育委員の立場で保護者と話す機会があり、困りごとを定例会で情報共有できた。 ・委員のそれぞれの仕事の立場から教育に携わっていただき、学校の課題解決につながったケースもあった。 ・委員として学校行事や各種団体の活動に参加でき、地域づくりを深く考えたり、島の大切な社会資源を再認識することができた。 ・それぞれの立場から共有できそうな行事や講習会等に参加し、内容を定例会やメール等で情報共有することができた。 	3.0

重点施策	評価の観点	成果・課題等	評価
<p>1 教育委員会の活性化の推進</p>	<p>(4)その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の先生とは話す機会があるものの、新たに着任した教職員との接点がなく、思いを聞くことができなかつたので、こちらから歩み寄る姿勢を持ちたい。 ・子どもたちの学校行事・地域活動などを知り、「いままでこうしてきたから」ということで、その活動が負担になっていないか、調査等が必要だと思ふ。 ・ペーパーレスをもっと推奨してもいいと思ふ。議事録の確認資料や会次第など、メールでも良いかと思ふ。 ・学校職員の時間外労働について、一部に長時間の残業があつた。 ・立場や能力により仕事が偏っていないか、人員確保が難しい中、情勢の変化とともに増えた仕事に対し、削減できる仕事はないか考える必要がある。 ・島内の様々な課題の解決には、多職種、団体との連携を密にし、情報共有を図る必要がある。 ・地域からの相談や情報を積極的に共有したいと考える。 ・事前に資料をいただくのはありがたいが、配布など手間がかかるのでは。 ・事務局の負担を削減できる方法があると良い。 	

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
2 豊かな心と健やかな体を育む教育	(1) 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各校で「心の教育の日」を設定し、全クラスで道徳の授業参観を行うよう指導するなど、道徳意識の高揚に努めた。 ・ステップアップ研修やパワーアップ研修に被せて道徳の研究授業が各学校でなされ、指導の在り方について交流する機会があった。 ・町内でのいじめ認知件数が一定程度あることから、引き続き道徳教育の充実を図る必要がある。 	3.0
	(2) 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校において年間5回以上のいじめアンケートを実施し、積極的にいじめを認知・指導するよう指示している。また、不登校や問題行動の状況について、定例教育委員会で情報共有をし、今後の指導の在り方について協議している。 ・町単独予算でスクールソーシャルワーカーの雇用(2人)を継続し、学校からの要請により家庭訪問や個別面談等を実施し、児童生徒・家庭を支援した。 ・生徒指導提要の改訂を踏まえ、各学校のいじめ防止基本方針の見直し・改善に取り組んだ。 ・中学校において起立性調節障害による長期欠席者が増加している。また、不登校についても、複数の関係機関と連携をしないと解決の道が見出せないような複雑な案件が残されている。 	3.2
	(3) 人権同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の経営グランドデザインの上位に「人権尊重の精神」に係る文言が入り計画的に実践に努める姿勢が見られる。人権教育研修資料「なくそう差別 築こう明るい社会」や人権教育指導資料「仲間づくり」等の活用について啓発した。また、人権に係る職員研修を年3回以上位置付けるよう各校を指導した。 ・今年度も「人権教育指導者研修会」を町教委主催で開催した。各学校の人権教育の取組を一層充実させるためのよい機会となった。 	3.0
	(4) 体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の宿泊学習は、今年度も宿泊を伴わない「体験学習」としたが、各学校では様々な自然体験学習が計画され、町教委もバスによる送迎を行うなどサポートに努めた。 ・海洋教育科「ゆんぬ学」における様々な体験活動として、サンゴの観察、環境学習、くらしを守る職場訪問、伝統・文化施設訪問、サトウキビ・じゃがいも栽培、農家訪問、黒糖作りなどの食に関する体験などが各学校で円滑に実施されるよう、地域人材の紹介やバスによる送迎を積極的に行った。 	4.0
	(5) 子ども読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も全校に学校図書館司書・司書補助員を配置できた。 ・司書教諭・学校司書合同研修会を開催し、それぞれの職務を確認することができた。各小・中学校では、学校司書の尽力に支えられて読書活動が非常に充実している。 ・与論中学校ではテラスプロジェクトが進み、生徒・保護者における図書館への関心が高まった。 ・学校図書館司書の全校配置については、継続して行う必要がある。 	3.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
2 豊かな心と健やかな体を育む教育	(6) 文化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も小・中・高音楽発表会を開催することができた。 ・ヨロン・おきなわ音楽交流祭を実施することで、各学校の演奏レベルの向上が図られるとともに、他校・団体の演奏・演技を直に感じることができた。 ・図画作品審査会では、こども園から中学校までの他校種の職員が参加し、技法指導や鑑賞指導の力量形成を図ることができた。 ・書き初め大会に多くの参加があり、後日、優秀作品を役場に展示したり、教育委員会だよりに掲載したりした。 ・地域移行をしている与論中学校吹奏楽部の定期演奏会について、運営の協力をした。 	4.0
	(7) 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で「早寝、早起き、朝ごはん」が推進されており、「弁当の日」についても、各学校の創意工夫により実践が継続されている。 ・大島支庁と連携した食育支援事業として、2つの学校で食育支援員を招いた「食に関する授業」を実施することができた。(講師:有元カスエさん、与論町漁業協同組合ほか) ・毎月1回「ユンヌマサムヌの日」を実施し、地産地消の推進と郷土料理の積極的な導入の視点から給食を充実させた。 ・ふるさと納税を活用してマンゴーや与論牛、海産物などを学校給食に取り入れることで、地場産物に対する興味や理解を増進することができた。また、特産品の給食提供日に学校へ生産者が赴き、給食時間を使って講話を行った。 	3.8
	(8) 体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校陸上記録会に企画段階から関わり、前日・当日の運営を積極的にサポートすることができた。 ・各小・中学校が「たくましい“かごしまっ子”育成推進プラン」を作成することで、各校で運動好きな児童生徒の育成のための取組が計画的に推進された。 ・今年度中学校女子バレー部が地域移行したが、今後は残りの部活動についても指導員が派遣できるよう、地域と連携しながら進めたい。 	3.0
	(9) 健康・安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の医療機関と連携し学校検診及び就学前健診を行い、再検査等が必要な児童生徒について適切な受診指導を行った。 ・健康・安全教育に関する研修会等の開催情報を収集し、都度、各学校に案内した。養護教諭を中心に、健康教育についての研修会への参加が多くなされた。 ・インフルエンザシーズンはもちろん感染症情報紙を定期的に配付し、各学校に対し感染予防の指導や感染拡大防止の措置を行った。 	3.5

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
3 社会 の 変 化 に 対 応 し 、 自 立 す る 力 を 育 む 教 育	(1) 確かな学力の 定着(学力向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職研修会や学力向上担当者研修会等で学力向上のための指導を継続的に行った。「与論町授業スタンダード」の活用について指導し、意識した授業展開が見られた。 ・「学習者主体の授業」プロジェクトにより、各校が連携した研究公開がなされた。各学校の研修で「学習者主体の授業」等について指導し、対話活動や振り返り等を取り入れる実践が広がった。 ・国や県の学力調査の実施前後は、各学校の状況を踏まえ適宜指導した。 ・小学校SET加配教諭の配置やALTとの契約等により、外国語科・外国語活動の指導充実を図った。 	3.0
	(2) 特別支援教育 の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会の開催により、与論町の特別支援教育に「縦の連携」と「横の連携」を生み出す工夫をした。 ・県の特別支援課や大島特別支援学校の職員を招き、就学相談会やこども園及び各学校の巡回相談を充実させた。 ・特別支援教育の啓発を目的とした町のリーフレットを就学時健康診断で保護者・関係者に配付し意識を高めた。 ・ハレルヤこども園のノア相談室や与論徳洲会病院、与論町社会福祉協議会と連携し、発達検査の実施体制を更に充実させることができた。 ・特別支援教育支援員については、予定していた人員配置に努めたが、育児休業分の任用希望者がなく補充配置ができなかった。 ・各機関と連携しながら、保護者のニーズに応じて意見交換の場を設けることができた。今後もよりよい特別支援教育の在り方について模索していきたい。 	4.0
	(3) キャリア教育 の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、与論高校でのキャリアパスポート(夢ファイル)の実施、引継ぎを進めている。 ・地域おこし協力隊や海洋教育地域コーディネーターを配置することで各学校のキャリア教育が充実している。 ・中学校では職場体験学習の成果物として、職業図鑑「きぼとうる ゆんぬんちゅ」が制作され、地域と連携した取組がなされた。 	4.0
	(4) 郷土・伝統文化 教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育が充実してきたことにより、「与論町の魅力を再発見するとともに、与論町の課題に気付き、郷土と自分との関わり方を考える取組」が計画的に進められている。 ・各学校・各園において、ユンヌフトゥバを大切にした教育活動が展開されている。 ・各小・中学校は、運動会や文化祭に向けてエイサー等の練習を積極的に進め、町教委も指導者の派遣等により各学校の取組を支援した。 ・「かごしまジュニア検定」への参加について各学校に働きかけたところ、今年度も2つの小学校が検定に参加した。 	4.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
<p>3 社会の変化に対応し、自立する力を育む教育</p>	(5) 海洋教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、町内の全小・中学校が教育課程特例校として「海洋教育科『ゆんぬ学』」を推進した。海洋教育科のねらいを「海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ、与論島の海とくらしの課題について探究することを通して『島だちの力』を身に付ける。」と設定し、地域サポーターの協力により各学校での学びが一層充実した。 ・「第5回ヨロン海洋教育フェア」には300人を超える参加があり、小・中・高校の児童生徒が他校の学習成果を知る機会となった。また、町民の海洋教育に対する理解増進に繋げることができた。 ・地域おこし協力隊や地域コーディネーターの活動により、教育機関、行政機関との連携が非常に充実している。ホームページも作成し、中高生や教員が授業に活用できる工夫も取り入れている。 	4.0
	(6) 幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・園長研修会を定期的実施し、園長と直接協議しながら、法的、教育的、経営者的な側面から指導と助言をすることができた。 ・「こども園研修会」や「こ小連携研修会」において、年長児でのアプローチカリキュラムと小学1年生のスタートカリキュラムの重要性を繰り返し指導し、小学校の教員が幼児教育を理解する機会となった。 ・指導主事がこども園の5歳児クラス担任と情報共有をしたり、5歳児の保護者の就学相談を積極的に実施するなど、こ小接続に取り組んだ。 	4.0
	(7) 社会の変化に対応した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想については、機器の配備が進んでいるが、使用の荒さや経年劣化により端末の故障等も目立っている。校務支援システムや昨年度整備したAIDリルは、各学校で大いに活用されている。 ・性的マイノリティへの配慮について地域の理解が進み、与論町相撲大会では、衣服の上から廻しをする男子が多く見られた。 ・学校の働き方改革の視点から、町教委の主催事業や学校への諸調査の在り方について配慮しているが、よりよい学校運営がなされるよう引き続き業務改善を推進していく必要がある。 	3.5

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
4 信頼され、地域とともにある学校づくり	(1) 開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会のホームページにて、各学校での校則等や海洋教育の計画、児童生徒作品の展示情報などを発信した。また、各学校の「学校だより」を町教委が一括して学校ホームページに掲載し、全ての学校の「学校だより」をいつでも誰でも読むことができるようにしている。 ・海洋教育の地域サポーター・地域コーディネーターや部活動指導員、吹奏楽部地域サポーターを各学校に派遣し、「開かれた学校づくり」を推進した。 ・11月の「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」のポスターを掲示した。 	3.0
	(2) 学校運営の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職研修会を通じて町教育行政の施策を伝えるとともに、各小・中学校長が目標をもち、各学校の課題に応じた学校運営に取り組むよう指導した。 ・町教委学校訪問を実施し、学校経営に対する助言を行った。 ・指導主事の学校訪問の際には、組織力や指導力の向上の視点からの指導助言を行った。 ・校長会、教頭会からの要望に添う形で、町主催の諸行事や諸会議の在り方の改善に努めた。 ・中学校に教員業務支援員を配置し、教員の事務負担軽減に努めている。 	3.5
	(3) 教職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・適時に服務指導を行ったが、教職員の服務規律違反が数件報告され、指導した。 ・各小・中学校の校内研修や経験年次研修などの場で、指導主事が指導や助言を行い教職員の資質の向上に努めた。 ・大島教育事務所の指導主事や県総合教育センターの研究主事を各学校に招聘し、中・長期的な視野での指導をいただいた。 ・県の特別支援教育課や保健体育課、義務教育課等が学校を訪問し管理職を初め教職員が研鑽を積む機会とした。 	3.5
	(4) 安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路安全推進会議を開催し、各校の通学路に関する課題を解決すべく、学校、道路管理者、警察、自治公民館代表、保護者代表等の連携を図った。 ・校舎、校庭、教職員住宅の修繕補修を行い、児童生徒、教職員が安心して過ごすことができる環境整備に努めた。 ・スクールガード・リーダーの事業を継続し、登下校時の見守りや校内巡視などの活動を年間26回行った。 ・水難危険区域マップを校外生活指導連絡会で提示したり、与論町通学路交通安全プログラムを町教委ホームページで公開したりするなど、啓発活動に取り組んだ。 	3.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
4 信頼され、地域とともにある学校づくり	(5) 教育環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての小・中学校で校舎の安全点検を実施させ、危険箇所等については逐一状況を報告させた。 ・那間小学校校舎の老朽化による天井コンクリート剥落に伴い、剥落の可能性があるコンクリートをはつり処理するとともに点検を行った。 ・「与論町総括安全衛生委員会」を開催し、教職員の労務環境の改善を町として支援できるようにした。 ・老朽化等に伴う校内の危険箇所の修繕を随時実施した。ただし、修繕が追いつかず、年度をまたぐ箇所も数多くある。また、教職員住宅の住環境には常態的に課題がある。 ・那間小学校については、一時使用校舎の整備を進めている。 ・那間小学校・茶花小学校については、建築物の状況を鑑み早期の立て替えが必要である。 	2.0
	(6) 特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育「ゆんぬ学」において、学校ごとに活動内容を定めて、地域と連携し取り組んでいる。 ・町として進める「島だちの教育」が、児童生徒にどのような資質・能力を身に付けさせることをねらっているのかを、各学校に具体的に伝え続けていく必要がある。 ・「中学校及び高校の2学級存続」を目指したふるさと留学生事業を継続することができた。今後も必要に応じて制度を見直しながら受け入れ活動の充実を図っていく必要がある。 ・漢検・英検補助金制度の理解が進み、各学校からの数多くの受検があった。 	3.0
	(7) 与論高等学校との連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・中高乗り入れ授業を進めることができた。また、中高合同の職員会議も開かれ連携を深めている。 ・小・中・高校連動型の海洋教育の実践が一層充実し、「ヨロン海洋教育フェア」での高校の発表が高度化している。また、今年度も高校3年生のアシスタントティーチャーの取組を3小学校が受け入れており、小・高連携もさらに進んでいる。 ・一般的には「県立学校であるために地教委としては協力できないこと」が、与論においては「連携型高校であるために町教委として協力すべきこと」になる場合がある。高校側の要望に耳を傾けながら、よりよい形で連携できるよう検討していく必要がある。 	3.5

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
5 地域全体で子どもを守り育てる環境づくり	(1) 地域ぐるみでの子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各単位子ども会・育成会のそれぞれの特性を活かした活動を実践することができた。全15子ども会が参加し、与論島クリーン大作戦「夏」を6月に、「秋」を11月に、年間2回の清掃活動を実施し島内の海岸やヨロンマラソンコースをきれいに清掃することができた。 ・子ども会育成連絡協議会理事会において、各子ども会の活動内容や計画・課題等を話し合い情報を共有することで、活動の充実を図り活性化に努めた。 ・薩摩川内市立少年自然の家で開催されたジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会へ地区子ども会育成連絡協議会と協力し、与論高校生4名の参加を実現することができた。研修活動や他地域に住む同年代の参加者との交流をとおして、社会を生き抜く力や自己肯定感を育み、ジュニア・リーダー養成に寄与することができた。交流活動・体験活動推進の重要性を再確認し今後も参加者の確保に注力していきたい。 	4.0
	(2) 家庭及び地域の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・与論町子ども会育成連絡協議会において、「青少年育成の日(第3土曜日)」・「家庭の日(第3日曜日)」・「育児の日(毎月19日)」の啓発、町民一斉清掃の日の設定と啓発を行った。 ・子ども会花壇づくり研修会を実施した。12子ども会の参加があり、学んだ知識を活かし年間をとおして花壇づくりに取り組むことができた。2月に花壇コンクールの実施を予定している。 ・家庭教育学級をとおして、スマートフォン等を使用したゲームのし過ぎ防止などのメディアの使用に関する啓発に努めた。 ・「土日の有効活用の基本方針」の啓発について、スポーツ少年団登録説明会や子ども会育成連絡協議会理事会において共通理解に努めた。 	3.0
	(3) 家庭教育支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級合同開講式を行った。各小中学校は、家庭教育学級を開催し家庭教育力及び人権教育の向上に努めた。 ・開校式の際に校長による人権講話を実施した。各学校の自主的な活動内容にも人権同和教育を取り入れている学校が多く、人権教育への意識の高まりを感じた。また開校式での人権講話の中でグループワーク式で取り組む場面もあり、参加者も楽しく取り組めたという意見が多かった。 ・町PTA連絡協議会の事務局(与論中)との情報共有を図りながらのPTA活動の連携は出来なかった。 	3.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
5 地域全体で子どもを守り育てる環境づくり	(4)「特色ある教育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・町内放送によるユンヌフトゥバの活用をとおして、地域で子どもを守り育てる環境づくりに努めた。 ・与論ことわざカレンダーの活用及び郷土教育資料(町誌やユンヌの歩み等)活用の推進は出来なかった。 ・ユンヌ検定、1月文化財防火訓練を実施した。 ・与論カルタ大会は、各子ども会上学年2チームの参加を可とし、トーナメント戦を実施。子どもたちが楽しみながら学ぶ大会となった。また、中学生が運営をし、高校生ボランティアが指導・補助をすることで小学生にとっての模範となり、中高生の地域の中での役割を再認識することができた。 	4.0
	(5)「土・日の有効活用」の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・各単位子ども会において花壇整備に取り組み、花いっぱい運動を推進した。花壇移設を実施した単位子ども会の活動を支援することができた。 ・与論町スポーツ少年団登録説明会及び与論町子ども会育成連絡協議会理事会において、第3土曜日は青少年育成の日、第3日曜日は家庭の日であり、原則その目標にあった活動を中心に行い、その他の趣旨の団体活動は自粛する旨、周知を図った。 	3.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
<p>6</p> <p>生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興</p>	<p>(1)生涯学習の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の推進・普及を図るため、学校等の7施設に移動図書館で月1回出向き巡回貸出しを行った。 ・子どもの読書活動を促進するため、1年生図書館招待、こども園の受入を行った。また、ボランティアグループの日曜日のおはなし会を行った。昨年度の利用者からの要望で隔月だった親子でいっしょにあしばんDAYは毎月へと変更した。 ・今年度から、高校生ボランティアにクリスマスおはなし会の運営を手伝ってもらう事でイベントがスムーズに実施することができた。 ・今年度から、大人向け図書館講座を新たに行うことができた。『高校生対象の得するお金の話』『ゆるラン教室』、『妊婦さん向け図書の紹介』を保健センターに協力してもらい実施した。 ・職員のスキルアップの向上のために、司書教諭・学校図書館司書と合同で「読書バリアフリー」「電子書籍」「広報のデザイン」について研修を行った。 ・新鮮で魅力ある図書館資料の充実・施設の老朽化が課題である。 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全面を最優先し、年度末にて与論町中央公民館・茶花地区公民館の閉館を決定。今後の公民館教室の実施等、詳細を調整中である。 <ul style="list-style-type: none"> ・城、東区、古里の自治公民館長と青少年センター施設の管理に関して基本協定書(令和2年度から令和6年度)に基づき年度協定を締結し自治公民館活動の推進に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育関係団体と連携し協力しながら、各種行事等を実施することができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会の成熟化に伴う多様なニーズや社会情勢の急激な変化に対応するために、生涯学習の充実がますます求められている中で、これまでの学習の成果と今後の生涯学習の在り方を展望し、潤いと活力に満ちたふるさとづくりに寄与することを趣旨とした、第20回大島地区生涯学習推進大会和泊町大会へ文化協会員が出席し、各市町村の取組や具体的な活動発表及び講演等を通して、学びを深めることができた。令和8年度は与論町開催となることから、参考にして準備を進めたい。 	<p>4.0</p>

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
6 生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興	(2)生涯スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・町民体育大会や町駅伝大会、やんばる駅伝競走大会、大島地区ゲートボール競技大会、町相撲大会など各種スポーツ大会を開催することができた。また、本年度については、巡回ラジオ体操・みんなの体操を開催し、町民の健康寿命の向上に取り組むことができた。 ・スポーツ推進委員連絡協議会の通常定例会や講習会への参加・町イベントの運営協力等、活動の充実に努めた。 ・県民体育大会大島地区大会や大島地区駅伝大会に参加し町民のスポーツ振興を行った。 ・体育施設指定管理委託者のヨロンSCと連携して、町体育協会の各種スポーツ団体やスポーツ少年団の支援協力を行った。 	3.5
	(3)スポーツアイランド構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ合宿への対応やスポーツ選手の受入に取り組むことができた。今後も商工観光課や観光協会、スポーツクラブ等と連携して誘致推進に取り組む必要がある。 	3.0
	(4)文化芸術活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・与論カルタ大会は、各子ども会上学年2チームの参加を可とし、トーナメント戦を実施し伝統文化の継承に努めた。 ・文化協会と連携しながら、2月に町文化祭を開催した。本土復帰70周年を記念して昨年度制作した島の生活の移り変わりについての企画展示を今年度も掲示して、町民へ閲覧の機会を提供する予定。 ・芸術・文化に親しむ環境づくりのために、2月に町生涯学習フェア・文化祭・公民館教室発表会を同日開催した。みやまコンセルや奄美少年自然の家の協力により、例年以上にメニューが充実したことで、多くの町民の来場があり盛大に開催することができた。 	4.0
	(5)文化財の調査・保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・与論城跡の国指定に向けた手続きを実施した。 ・また、昨年度までの調査成果をもとに、新たなパンフレット作成や沖縄県博物館からの借用模型を用いた現地説明会などを実施した。 ・開発事業予定内の近世墓(奉行墓ブシヨウ)の取扱いに関する調整と、試掘確認調査を実施した。調査には琉球大学の考古学研究室に支援業務委託を行って実施した。 ・町指定有形民俗文化財(与論民俗村)の現状確認作業を有識者や琉球大学、国立歴史民俗博物館の協力の下に行った。調査を行ったところ、資料数と調査期間の都合、数か年要すると考えられる。引き続き関係者と連携しながら業務を引き続き行っていきたい。また、同資料の保存、保管のあり方についても対応、協議を進めていきたい。 ・与論十五夜踊り保存会へ町補助金による運営補助を行った。 ・商工観光課や観光協会と連携して十五夜踊りの魅力発信のための講演会なども開催した。 	4.0

Ⅲ 教育行政評価委員意見のまとめ

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
1 教育委員会の活性化の推進	(1) 教育委員会の会議の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆さんが働きやすい環境づくりを積極的に行っているようなのですばらしいと思います。 ・会議日程を定例化することにより、効率化と参加しやすい体制を整えている。 ・事前に資料を配布することにより、充実した会議になるよう努力されている点が評価できる。 ・説明資料が要点を簡潔にまとめられており、効率の良い会議運営となっている。
	(2) 委員の研修等	<ul style="list-style-type: none"> ・島外の活動事例や交換会など大変勉強になると思うので、研修には積極的に参加して落とし込んでほしいです。 ・町内の講演会や研修会に参加することで、教育に関する知識を深める良い機会となっている。
	(3) 委員の活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、保護者、教育委員がより良くいられるように話を聞く機会をたくさんもってほしいです。 ・様々な学校行事等に参加され、子どもたちや先生方、保護者の方々とふれあい、現場の課題を吸い上げて共有するなどの活動を熱心にされており、大変評価できる。 ・学校訪問を通して各学校の教育の特徴や苦勞されていることを理解するとともに、指導方法など工夫や熱意を感じることができ良い機会となっている。
	(4) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の事前配布及び説明は対面で非常にありがたいが、教育委員会の負担に感じる。メール及び電話、都合の良い時に役場に取りに来てもらうなど、配布先に応じた渡し方を検討しても良いのではないかな。 ・ペーパーレス化・データ化はまだできると思います。 ・PTAとのつながり自体は少ない気がします。教員抜きでPTAと教育委員会での意見交換の場があってもいい気がします。 ・会議や業務等の見直し等を行い、効率化や負担軽減に努めてほしい。 ・会議通知等の封書をやめ、メールやLINE等を活用してペーパーレス化と事務作業の軽減を進めてほしい。 ・ペーパーレスをもっと推奨してもいいと思う。議事録の確認資料や会次第など、メールでも良いかと思う。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
2 推 豊 進 か な 心 と 健 や か な 体 を 育 む 教 育 の	(1) 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き頑張ってもらいたい。 ・島の伝統である「誠」の心を培うためにも道徳教育は重要である。引き続き充実した道徳教育にご尽力いただきたい。 ・町内でのいじめ認知件数が一定程度あることから、引き続き道徳教育の充実を図る必要がある。
	(2) 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・大変な問題ですが頑張ってもらいたい。 ・SNSいじめや教員間でのいじめ等もしっかりと見ていてほしいです。 ・評議委員会等でも、いじめや不登校の生徒に対するきめ細やかな対応をされていることがうかがえ、非常に評価できる。不登校の生徒が増えているようなので、より充実した対策をお願いするとともに、引き続きみんなが安心して登校して学べる場を提供できるようご尽力いただきたい。 ・不登校や問題行動の状況について、定例教育委員会で情報共有をし、今後の指導の在り方について協議している。
	(3) 人権同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・那間小学校では人権に関する講和で保護者の参加が芳しくなかった。生徒への教育と合わせて、保護者の人権に対する意識を向上させる(自分も含む)ことが学校教育及び家庭教育のより一層の連携につながると考えます。 ・引き続き頑張ってもらいたい。 ・制服などの服装に関しても改善が必要な時期に来ていると感じます。 ・各学校の経営グランドデザインの上位に「人権尊重の精神」に係る文言が入り、計画的に実践に努める姿勢が見られる。
	(4) 体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習への教育委員会のサポートは非常にありがたいです。ミッシークトオトウガナシ！ ・バス送迎など有難うございます。 ・できる限りの範囲でよろしいので、学校やPTA等への協力をお願いしたいです。 ・海洋教育「ゆんぬ学」の実施により、児童生徒が主体的に島の魅力や課題を探究しており、大変評価できる。今後とも引き続き注力してほしい。生徒が一般住民ともかかわりを持ち、自らの島を知ること、生徒だけでなく住民も刺激を受け、シビックプライドの醸成につながっていると実感する。有能な人材が将来Uターンし、島の活性化にかかわってくれる基盤の醸成にもつながっている。 ・宿泊体験学習での飯盒炊飯や火おこし等の生きる力を学習して欲しい。
	(5) 子ども読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・司書・司書補助員の全校配置に関しては大賛成です。是非お願いします。 ・本のデジタル化に伴うデメリットに関しても子どもたちに理解してほしい。 ・引き続き頑張ってもらいたい。 ・司書を配置するなど、子供たちの読書環境の充実のために取り組んでいる点が評価できる。 ・与論中学校ではテラスプロジェクトが進み、生徒・保護者における図書館への関心が高まった。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
<p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">豊かな心と健やかな体を育む教育の推進</p>	(6) 文化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き頑張ってほしいです。 ・ヨロン・沖縄音楽交流祭など、交流機会が少ない本町の子供たちにとっては貴重な機会であり、このような交流の機会をできるだけ多く設けていただきたい。 ・十五夜踊りなどの地域の伝統文化に触れる機会を学校教育の中でも引き続き設け充実していただけるとありがたい。 ・ヨロン・おきなわ音楽交流祭を実施することで、各学校の演奏レベルの向上が図られるとともに、他校・団体の演奏・演技を直に感じる事ができた。
	(7) 食育の推進	<p>私の子供達は「明日の給食は〇〇だ～やったー!」、「今日の給食は〇〇だったよ!」などよく話題に上がる。子供達の食に関する関心が高く、食育の推進は引き続き続けて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消や郷土料理の取り組み素晴らしいと思います。 ・給食や授業で地元の食材を活用したり、交流機会を設けており、大変評価できる。今後とも地元食材の活用を進めていただくとともに、授業等でも地元の農家と連携した農業体験や栽培体験などができるとよいと感じた。 ・大島支庁と連携した食育支援事業として、2つの学校で食育支援員を招いた「食に関する授業」を実施し食育を推進している。
	(8) 体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校部活動の地域移行は大事だが、中体連との連携などは学校側なので、地域と学校側が協力してやってほしい。 ・今年度中学校女子バレー部が地域移行したが、今後は残りの部活動についても指導員が派遣できるよう、地域と連携しながら進めていただきたい。
	(9) 健康・安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きよろしくお願ひいたします。 ・町内の医療機関と連携し学校検診及び就学前健診を行い、再検査等が必要な児童生徒について適切な受診指導を行っている。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
3 社会の変化に対応し、自立する力を育む教育	(1) 確かな学力の定着 (学力向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語はこれからも大事になっていくと思うので、頑張ってもらいたいと思います。 ・国や県の学力調査の実施前後は、各学校の状況を踏まえ適宜指導している。
	(2) 特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き頑張ってもらいたいです。 ・特別支援は人員も専門的な知識も求められるところであるが、様々なことに尽力されており、評価できる。今後とも継続して、しっかりとしたサポート体制をお願いしたい。 ・関係機関と連携し、発達検査の実施体制整備に努めている。
	(3) キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい活動だと思います。 ・コーディネーターを配置しゆんぬ学を通じたキャリア教育に尽力されており、大変評価できる。今後とも与論島の魅力を活かした充実したキャリア教育を推進するとともに、島で学ぶ大きな魅力としてふるさと留学生の獲得につなげていただきたい。 ・地域おこし協力隊や海洋教育地域コーディネーターを配置することで各学校のキャリア教育が充実している。
	(4) 郷土・伝統文化教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしいと思います。引き続き頑張ってもらいたいです。 ・郷土の伝統文化に触れることは文化の伝承のために重要だと思います。ユンヌフウトゥバについても、中学校以降の教育課程でも継続して学ぶ機会を設けていただければと思います。十五夜踊りなどの地域の伝統行事についても、児童生徒が今まで以上に参画できる機会を増やせるとよいと思います。 ・海洋教育が充実してきたことにより、「与論町の魅力を再発見するとともに、与論町の課題に気付き、郷土と自分との関わり方を考える取組」が計画的に進められている。
	(5) 海洋教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい活動を行っていると感じます。引き続き頑張ってもらいたいです。 ・発表の場を用意してくれているのが凄く素晴らしいと思います。 ・とても充実した実施体制と内容となっており、大変評価できる。全国的な優良事例としてより充実・発展していただけることを期待します。 ・与論高校存続や定住拡大のためにも、ふるさと留学生の受入体制の充実と併せてさらにPRしていただけるとよいと思います。 ・今年度も、町内の全小・中学校が教育課程特例校として「海洋教育科『ゆんぬ学』」を推進した。海洋教育科のねらいを「海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ、与論島の海とくらしの課題について探究することを通して『島だちの力』を身に付ける。」と設定し、地域サポーターの協力により各学校での学びが一層充実した。
	(6) 幼児教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の方々のケアも引き続き行ってほしいです。 ・こども園と小学校の教員が連携して取り組んでいる点が評価できる。保育士の確保やスキルアップ、やりがいを持って働ける環境の整備に引き続き取り組んでいただくことを期待します。 ・小学校とこども園の連携により、年長児でのアプローチカリキュラムと小学1年生のスタートカリキュラムの重要性を繰り返し指導し、小学校の教員が幼児教育を理解する機会となっている。
	(7) 社会の変化に対応した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き頑張ってもらいたいです。 ・相撲大会の対応よかったですと思います。 ・GIGAスクール構想については、積極的に進めていただくとともに、ネットリテラシー教育も併せて実施していただきたい。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
4 信頼され、 地域とともに ある学校づくり	(1) 開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用等引き続き頑張ってもらいたい。 ・継続して取り組んでいただきたい。 ・「学校だより」をホームページに掲載することで、町民が学校の取り組みを理解することに繋がっている。
	(2) 学校運営の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職ではなく若い職員などが積極的に話せる場を望みます。 ・各種会議等の見直し等を検討していただきたい。 ・中学校に教員業務支援員を配置し、教員の事務負担軽減に努めている。
	(3) 教職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組んでほしいです。 ・違反事例がないよう適切にご指導いただくとともに、先生方がより働きやすく、子供たちの教育に集中できるような環境整備をお願いします。 ・会議等について本当に必要かどうか、統合や省略化できないかなど再検討をお願いしたい。 ・地域や保護者との交流や連携もこれまでどおり取り組んでいただきたい。 ・大島教育事務所の指導主事や県総合教育センターの研究主事を各学校に招聘し、中・長期的な視野での指導をいただいた。
	(4) 安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りしている地域の方と生徒との交流の場があると、より挨拶も増えるのではないかと思います。 ・継続して取り組んでいただきたい。
	(5) 教育環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は少し厳しいと感じました。設備の充実という点からしかたがない部分もあるかと思いますが、剥落に伴う処理、点検及び初期対応は迅速に行っていただいたと感謝しています。 また、本年度で一時使用校舎の建設について具体的に計画が進んだことは今後の評価につながると思います。 ・教職員住宅の住環境に関しては早急に対応する必要がある。 ・安全に学べる環境を確保いただくこと、教員住宅の住環境の充実をお願いします。 ・「与論町総括安全衛生員会」を開催し、教職員の労務環境の改善を町として支援できるようにしている。
	(6) 特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校もふるさと留学の対象になることを願います。与論町の児童数の減少が進み、特に、那間小学校に端的に現れています。 また、那間小学校は児童数が減少する中で、一時使用校舎及び新校舎の検討とともに、新たな学校のあり方が求められています。児童数が少ないことは児童1人1人に目が届きやすく、落ち着いた環境ともいえます。「第3の居場所」や「充実した特別支援教育」などの機能を有した特色ある学校となれば与論町にとって非常に価値が高い学校になるのではないかと考えています。 ・ふるさと留学生事業など引き続き取り組んでいただきたいです。 ・海洋教育「ゆんぬ学」を積極的に取り組まれており、島の魅力を活かした特色ある学校教育に取り組まれている点が非常に評価できる。 ・住居問題など様々な課題があると思われそうですが、他の部署とも連携し、ふるさと留学生の受入体制の整備充実とより積極的なPR等に取り組んでいただくことを期待します。
	(7) 与論高等学校との連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き頑張ってもらいたい。 ・中高一貫教育としての強みを生かし、より魅力的な教育体制が実現できるようご尽力いただきたい。 ・中高乗り入れ授業を進めることができた。また、中高合同の職員会議も開かれ連携を深めている。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
5 地域全体で子どもを守り育てる環境づくり	(1) 地域ぐるみでの子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き取り組んでほしいです。 ・地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりは、子育てするうえでは重要な点であり、評価できる。今後も継続して取り組んでいただきたい。一方で、これまでの集落などにとらわれない枠組みでの活動や取り組みの検討、各集落単位のコミュニティーの主体的な活動を促すことを期待したい。
	(2) 家庭及び地域の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇に関しては会長だけの仕事となっている場所もあると聞くので、考えていく必要があると感じます。 ・これまでの集落などにとらわれない枠組みでの活動の検討や実施団体等との連携協力も必要になると感じる。 ・子ども会活動や各集落単位のコミュニティーの主体的な活動を促すことを期待したい。
	(3) 家庭教育支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・他学校PTAとの交流をもっと持てたらと思います。 ・役員等の負担軽減と参加者が気軽に参加できる体制づくりのために、オンラインとのハイブリット開催をお願いしたい。
	(4) 特色ある教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き取り組んでほしいです。 ・海洋教育「ゆんぬ学」を積極的に推進しており、大変評価できる。今後ともより充実させていきたい。
	(5) 「土・日の有効活用」の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き取り組んでほしいです。 ・「土日の有効活用の基本方針」の啓発については、様々な機会を活用して周知する必要がある。
6 生涯にわたって文化の学べる環境づくりと	(1) 生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き頑張ってください。 ・これまでも様々な取り組みを実施しており評価できる。加えて社会人等のリカレント教育、リスキング教育の機会創出についても、他の部署や機関・団体等も連携して取り組んでいただきたい。 ・高校生ボランティアの運営補助は、様々な仕事を体験する良い機会になっている。
	(2) 生涯スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き頑張ってください。 ・各種行事の開催に取り組んでおられ、継続して取り組んでいただきたいと思っています。
	(3) スポーツアイランド構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き頑張ってください。 ・観光部署等との連携を図りながら、今後の方針の検討を進めていただきたい。 ・スポーツ合宿への対応やスポーツ選手の受入に取り組むことができた。今後も商工観光課や観光協会、スポーツクラブ等と連携して誘致推進に取り組む必要がある。
	(4) 文化芸術活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き取り組んでほしいです。 ・様々な文化芸術に触れる機会を創っており感謝します。来場者の利便性、職員や関係者の負担軽減を図るとともに、より充実したイベントとなるよう、他部署や民間団体等のイベントと連携するなど検討していただきたい。
	(5) 文化財の調査・保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい活動だと思います。 ・与論城跡の国指定など大きな成果を上げており、大変評価できる。 ・発掘調査等を引き続き尽力いただくとともに、保全・管理体制の検討、観光部署等と連携した有効活用などにも引き続き取り組んでいただくことを期待します。 ・無形文化財のリスト化や保存(映像や写真記録等)、継承等にも取り組んでいただけるとなおよい。 ・沖縄県博物館からの借用模型を用いた説明会など、現地で活動することが有効である。